

ロータリーの友

THE ROTARY-NO-TOMO NOVEMBER 2015 VOL.63 NO.11

ロータリーの友11月号 第63巻 第11号
平成27年11月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻755号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

11
2015



Cover Story 表紙のメッセージ

岡井 耀毅



「紅葉の庭園」(埼玉県)
撮影 内山 明夫 (2570 東松山むさし)

岡井 耀毅

この園に紅葉照り映え夢のごと

撮影は、平成二十二年十一月下旬。
と、内山明夫氏は言う。

朝夕の冷え込みで紅葉は三日も経てば別の色
に染まりはじめる。
「深まる秋を撮りたくて三週連続して通いつ
め、やつと三週目で撮り収めたこれぞ一枚のシ
ヨツトです」

ここは埼玉県のほぼ中央、比企郡滑川町にあ
る比企丘陵の「国営武藏丘陵森林公園」――
東京ドーム六十五個もの面積があり、四季
折々の自然の風景が楽しめる。
そのなかにある「カエデ園」は、十一月中旬
から六百本の紅葉がライトに照らし出されて、
えもいえぬ息をのむ美しさで幽玄そのものの空
間を創り出している。

ロータリーの友

THE ROTARY-NO-TOMO APRIL 2015 VOL.63 NO.4

ロータリーの友4月号 第63巻 第4号
平成27年4月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻748号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

4
2015



Cover Story

表紙のメッセージ

岡井 耀毅



「夢灯路と満開夜桜」(埼玉県)
撮影 内山 明夫 (2570 東松山むさし)

夜桜や夢見ることく匂い切り

岡井輝生

この楽しいイベントでは、和紙を張った手作りの灯路を歩きながら、男沼の松山神社と女沼の弁財天を参拝すると、二人の思いや夢がかなうという言い伝えがあり、そぞろ往時を偲ぶひとときが楽しい。

「夢灯路の明かりと満開の桜が織りなす美しい夜景は東松山市民に夢と感動を与えてくれます。毎年撮影に出かけますが、その美しい風景には思わず夢中になつてシャッターを切り続けます」と、内山明夫氏は言う。

ライトアップに浮き出る満開の夜桜は思わず目を奪われる美しさだ。ここは埼玉県東松本市の「東松山夢灯路・上沼会場」。毎年、桜の季節になると、ライトアップに合わせて二つの沼の周辺と沼を結ぶ路地に千五百基の灯籠がずらりと並ぶ「東松山夢灯路」が開催されて人出でにぎわう。

ロータリーの友



THE ROTARY-NO-TOMO
APRIL 2013 VOL.61 NO.4

ロータリーの友4月号 第61巻 第4号
平成25年4月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻724号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

4
2013



「復活の獅子、恩返しの舞」
撮影 内山 明夫
(2570 東松山むさし)

えてくれました」と、撮影した内山氏。

獅子舞は、猪や鹿など獣類の頭の「獅子頭」をかぶって舞い踊る民俗芸能で、わが国の芸能のなかでもっとも古い歴史をもつ。「古事記」や「万葉集」にも、鹿の角を捧げて舞つたり、鹿の擬態を示唆する歌があるという。獅子は古代から最強の獣という伝聞認識と仏教浄土の守護獣として悪霊を払う靈獸という信仰があり、早くから熱い支持があったといわれ

る。

(ジャーナリスト)

「復活の獅子、恩返しの舞」というこの写真
——なぜ「恩返し」なのか。

二年前の二〇一一年三月十一日、突如襲った東日本大震災で東北の宮城県東松島市の大曲浜地区も潰滅的な被害を受けた。全国各地から救援物資が送られ、救援にもかけつけたが、そのなかに埼玉県東松山市の有志たちもいて、内山明夫氏もその一員だった。震災後、一字違ひの東松島と東松山の両市は相互支援協定を結び、さっそく「がんばれ子供まつり、がんばって東松島」を催して、内山氏も参加している。なにしろ三百五十年の伝統がある東松島市の「大曲浜獅子舞」の復活をねがって、流失した獅子頭を探し回り、九個あったうち四個が見つかった。だが、損傷はげしく、わずかに二個が修繕されて、幸うじて伝統の獅子舞が保持されることになったのだ。

その復活の「大曲浜獅子舞」が平成二十四年四月七日、埼玉県東松山市にぜひお祭りの舞いを披露したいということで、実際に豪華な〈復活の獅子舞〉で、市民に勇気と感動を与える。

「熱い支援活動をつづけた東松山市にぜひお祭りの舞いを披露したい」ということで、実際に豪華な〈復活の獅子舞〉で、市民に勇気と感動を与える。

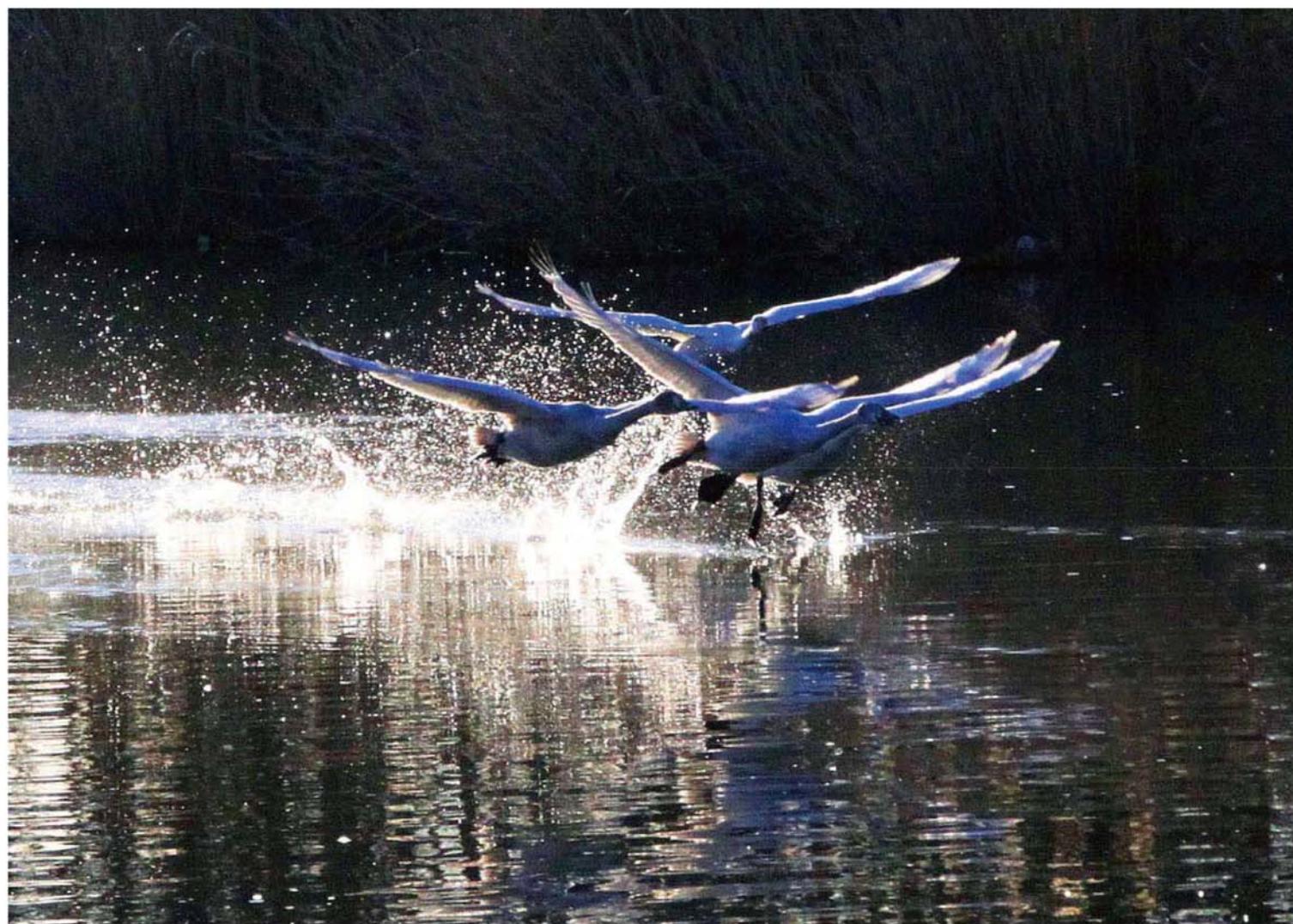
ロータリーの友



THE ROTARY-NO-TOMO
JANUARY 2013 VOL.61 NO.1

ロータリーの友1月号 第61巻第1号
平成25年1月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻721号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 一般社団法人ロータリーの友事務所

1
2013



「飛翔」(埼玉県)
撮影 内山 明夫
(2570 東松山むさし)

と、白鳥たちが声を掛け合って一斉に飛び立ちます。新しい年の新たな希望に向かっての飛翔と思えて大変感動しました

撮影は、平成二十四年一月八日。

(ジャーナリスト)

しぶきを立てて飛び立つ瞬間の白鳥。整然と雄々しく隊列を組んで飛翔していく。ここは、埼玉県比企郡川島町天神の越辺川。
毎年十一月二十日前後になると、北の国から白鳥が飛来してくるが、はじめて越辺川に白鳥が現れたのは平成十五年ごろからで、どうやら深谷の荒川に飛来していた白鳥が餌付けをしなくなつたために、この越辺川に移ってきたらしいと、川島町役場では言う。
多い年では、十一月末から新年にかけて百羽から百八十羽ほどになることもある。
どのあたりの北の国なのか不明だが、この冬の使者の飛来を楽しみにして堤防にたたずむ人たちもしだいにふえてきているという。
「正月、冬の凍てつく朝に太陽が昇り始める

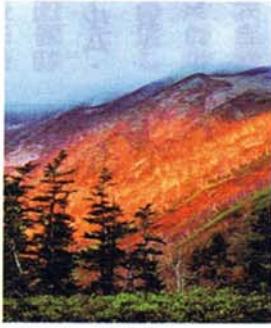
ロータリーの友



THE ROTARY-NO-TOMO
OCTOBER 2006 VOL.54 NO.10

ロータリーの友10月号 第54巻 第10号
平成18年10月1日発行(毎月1回1日発行)
通巻646号 昭和28年1月創刊
昭和43年4月23日第3種郵便物認可
発行所 ロータリーの友事務所

10
2006



稜線燃ゆ（長野県）

撮影 内山明夫
(2570 東松山むさし)

「前日からの『まじり』の雨がようやく上がり、四時頃から日の出の方向にカメラを構えていたが、雲が多くて諦めかけたとき、ふと後ろを振り返ると、雲間からの朝日が北アルプスの稜線を真っ赤に燃え上がらせていた。ほんの一瞬だったが、感動にふるえてシャッターを切った」

四年前の十月十日早朝、白馬岳の北側にそびえる白馬乗鞍岳を中腹の湿原地帯、高山植物の宝庫といわれる樹池自然園から撮つた一枚で、数年間つづけて同じ時期に通つて来て、はじめて掴んだ決定的瞬間の感動を内山氏は生涯忘ることはないだろう。

「日本には世界に高さをもつて誇るような山はない。しかしその姿の美しいこと、しかもそれが無限の変化や陰翳を持つていることは、おそらく地球上に類がないのではないかろうか」と山鬼の名にかけて深田久弥は述懐している。

（ジャーナリスト）

名著『日本百名山』や山岳紀行のエッセイで著名な作家深田久弥に、親しかった今白海は「山鬼」というニックネームを献じた。寝ても覚めても山のことばかり思いついている深田久弥の山恋いにいくぶん閉口しながらも敬服せざるを得ないということだったか。その深田久弥が薬師岳の麓の人たちの「岳は日に五度色をえる」という実感に大きくなずいて、山の景観の千変万化に決定的な役割を果たす光線の凄さに言及しているが、どんなに絶景でも、不機嫌のときは頭に残らない。つまり、風景の鑑賞の偏差は、その時々、人それぞれの心理状況にも大きく左右されるというのだ。その点、山岳写真歴十年になる内山明夫氏は、どうやらねに上機嫌で熱心な山恋い族らしく、この写真の撮影メモにも、